

藝文やまなし



「富士と菜の花畑」(富士河口湖町大石地区)

平成17年3月

Vol.12

CONTENTS

- 今年度の総括2
各事業の結果、県民文化祭の状況
- 総会・研修会のお知らせ3
- 文化賞受賞者紹介4～6
- 部門の紹介7
- いんふおめーしょん8

平成 16 年度の事業を振り返って



ご あ い さ つ

山梨県芸術文化協会会長 野 口 英 一

甲府盆地の野山が日増しに春めく日差しに輝いて、どこことなく心躍る季節となりました。

山梨県芸術文化協会の会員の皆様には、はや来年度の活動を胸にめぐらし、ほとばしる創作意欲がみなぎってこの本格的な春の訪れを迎えていることと思います。

ここに会員の皆様のご協力により平成16年度が無事終了することが出来ますことを、あらためて感謝申し上げます。

さて、本協会が主体となり実施している、やまなし県民文化祭は、平成13年度からはじまり、本年度第4回を終えたところですが、この4年間を振り返ってみますと、本協会がこの祭を通して県民文化の高揚に果たした役割は誠に大きなものがあります。

協会の設立理念である「山梨県における芸術各分野の自主的活動の強化促進と連絡強調を図り、その発展を助長するとともに、芸術文化の普及振興と県民文化の高揚に資する」という思いも着実に進展していると改めて感じられるところです。

特に、新たな試みであった総合フェスティバルでは、総合舞台、総合展示においてこの4年間で一定の評価が定着し、それぞれの分野が融合した芸術文化のすばらしさを発表できる大きなイベントとして県民に認識されてきているのではないかと思います。

また、各部門が実施する部門別フェスティバルでは、この協会の発足により芸術祭当時には無かった新たな部門が参加することとなり、各部門がレベルの高い作品を発表することで、感動を与えるばかりでなく県民に幅広い芸術文化活動へのきっかけを与え、広がりを見せつつあるのではないのでしょうか。

また、本協会の事業である山梨芸術劇場は、毎年6地域で実施され、身近に舞台芸術の鑑賞の機会が少ない地域の方々にそのすばらしさをお伝えし、芸術文化活動の底辺拡大に貢献しております。

さらに、指導者派遣事業は各部門講師を、要請のあった小・中・高等学校、市町村、文化団体に派遣し、芸術文化に興味ある方々を直接指導することによりさらに理解が深まる活動となっております。

今後とも、本協会の活動を活発に展開することにより、一人でも多くの県民が芸術文化に触れ、精神的にもゆとりとやすらぎに満ちた生活がもたらされるよう努力したいと考えております。

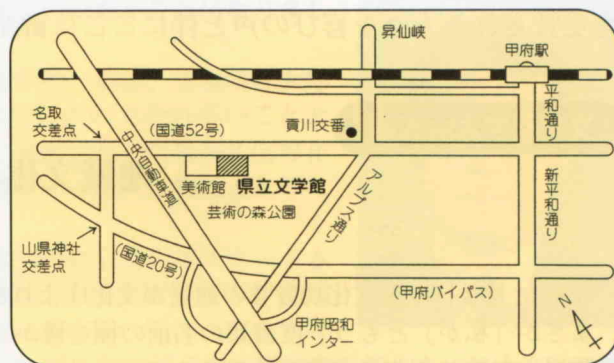
結びに、会員の皆様には来年度の本協会事業に対するさらなるご協力をお願いするとともに、今後ますますのご健勝と、すばらしい創作活動によりさらにご活躍されますことを祈念してご挨拶とします。

総会及び会員研修会のお知らせ

平成17年度の総会・会員研修会が以下の通り開催されますのでお知らせいたします。

○総 会

日 時 平成17年4月23日(土)
午後1時30分
場 所 山梨県立文学館 講堂
甲府市貢川一丁目5-35
主な議題 ○平成16年度事業及び決算について
○平成17年度事業及び予算について
○その他



○会員研修会

総会に引き続き、会員研修会が開催されます。

今年度は山梨県甲斐市(旧敷島町)出身で、信州大学で活躍している笹本正治先生を招いての講演会を開催いたします。

多くの皆様のご来場をお待ちしております。



【講師：笹本正治先生 プロフィール】

笹本正治(ささもとしょうじ)

信州大学人文学部教授。博士(歴史学)。1951年12月19日山梨県中巨摩郡敷島町(現甲斐市)生まれ。名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期修了。前長野県文化財保護審議会会長。山梨県文化財保護審議会委員、山梨県史編纂委員。

研究の主体は戦国時代史、音に対するイメージの変化、災害史、商人・職人史など。



著書に『戦国大名と職人』(吉川弘文館)、『中世的世界から近世的世界へ―場・音・人をめぐって―』(岩田書院)、『戦国大名武田氏の研究』(思文閣出版)、『蛇拔・異人・木霊―歴史災害と伝承―』(岩田書院)、『真継家と近世の鋳物師』(思文閣出版)、『中世の災害予兆―あの世からのメッセージ―』(吉川弘文館)、『武田信玄―伝説的英雄像からの脱却―』(中公新書)、『川中島合戦は二つあった―父が子に語る信濃の歴史―』(信濃毎日新聞社)、『鳴動する中世―怪音と地鳴りの日本史―』(朝日選書)、『戦国大名の日常生活―信虎・信玄・勝頼―』(講談社選書メチエ)、『山に生きる―山村史の多様性を求めて―』(岩田書院)、『異郷を結ぶ商人和職人』(中央公論新社)、『地域おこしと文化財』(ほおずき書籍)などがある。

◆問い合わせ先 山梨県芸術文化協会事務局(県生涯学習文化課内)
Tel 055-223-1797 Fax 055-223-1322

各受賞者の紹介

平成16年度に山梨県芸術文化協会の関係者で、「文部科学大臣表彰」、「県政功績」、「山梨県文化賞」を受賞された方々を喜びの声と共にここに御紹介いたします。

文部科学大臣表彰

地域文化功労賞を受賞して

中 村 淳



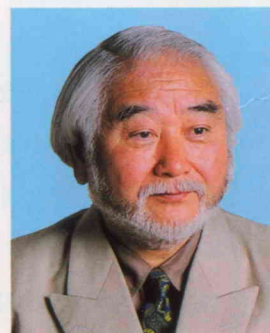
昨年11月2日地域文化功労賞の通達が文化庁よりありました。

まさか「私が」ともう一度書類の名前の欄を確かめました。一昨年の県政功績賞に続く受賞早々に妻に報告その喜びを囁みしました。そして11月9日妻と二人東京の如水会館にて、中山文部科学大臣より賞を受けました。その感激は忘れることはできないでしょう。ふり返ると昭和25、年大学時代より楽譜も読めない素人を集め合唱の喜び美しくとけたハーモニーを教えて50年、そして今も尚続けられるのは、理解と協力を惜しまない妻があり私を支えて下さいました音楽、合唱の諸先輩仲間たちがあったからこそ、今感謝の気持で一杯です。これからも受賞の名に恥じない文字通り地域文化振興のため努力する所存であります。今後ともよろしくお願いいたします。

県政功績

山梨文化にかかわって

山 田 耕 三



昭和32(1957)年頃から県立美術館建設への働きかけを始めた。その事務局を担当してから開館までに20年を要した。ミレーの美術館と称されることになった。勿論、県内芸術団体の一致した努力によるものが行政を動かしたことによるものであろう。その建設担当から退職するまでその運営の一員として過ごすことになり、これまでの美術館を外から観ていたのと全く異なる実態を知った。山梨県のシンボリック施設に関われたことは生涯の仕事の中で幸いのことであった。県内市町村での文化に関わる事業へも数多く参加させていただき、県芸術祭も全県民参加を目標とする県民文化祭の発足にも関わられた。

第1回山梨県文化賞、県政功績者の表彰など多くの方々のお力の結果と重く受け止め、残りの人生を力の限り生きたいと念じている。

山梨県文化賞文化功労者賞

山梨県文化賞文化功労者賞を受賞して

小 松 壽 武



この度山梨県文化賞受賞という栄に浴し大変名誉なことと感激しております。この受賞は長年にわたって文化活動に携わってきたことにお褒めをいただいたことによるかと思いますが、顧みますと私は良き友人に恵まれ共に文化活動をして来れたことが今回の受賞につながったことと、友情の有り難さをかみしめております。W. ペイターの「感覚を通しての“想像の理性”」という言葉が私の音楽等芸術に接する原点です。専門のクラシック音楽の美に一人で浸るのはあまりにも惜しく多くの人と共にその素晴らしさを共有したいという思いが私の音楽活動のエネルギーとなって、これまで音楽活動をしてきましたが、現在は山梨県芸術文化協会の指導者派遣事業で県内各地へ出かけて行つての弦楽四重奏等による演奏を主とした活動を続けています。終演後、感動した・心に響いた、などの感想が聞けた時、会場の皆さんと共に音楽の素晴らしさを共有できたという目的達成感に浸ります。これからも芸術文化普及のために県内各地に仲間と一緒にでかけて演奏活動をし、皆さんに音楽を通して芸術文化のオーラにふれてもらえたらと願っています。

県文化奨励賞を受賞して

文学部門専門委員 古 屋 久 昭

私が、県芸術祭の文学部門専門委員（詩部門審査員）をさせていただくことになりましたのは、1992年（平成4年）の秋からでした。

佐藤精一氏のあとを引き継ぎ、本県の先達詩人としてご活躍中の一瀬稔、曾根崎保太郎両氏とともに詩の審査にあたりました。まだ48歳という年齢でしたので恐れ多いこととも思いましたが、両氏から「詩の審査には若い感性が必要」と励まされ、以後毎年応募作品の審査にあたり今日に至っています。この間、曾根崎氏が逝き、一瀬、佐藤氏も先ごろ故人となられたのが惜しまれます。

県芸術祭はその後発展的に解消され、新しく「やまなし県民文化祭」としてスタートされました。このことにより県民の文化芸術の裾野の広がりが期待されるわけですが、専門委員として微力ながらも更なる努力をしてまいりたいと考えています。

授賞式の日私の62歳の誕生日で、私にとってはダブル祝福。県当局の皆さん、関係者の皆さんには大変お世話になり、心から御礼申し上げます。



彫刻を志して

丸 山 武 雄

この度山梨県文化奨励賞と言う大きな賞を頂き、私如きがと恐縮して居ります。

私が彫刻を志して早くも50余年、その第一歩が幸運にも故宅間正一、樋川浩之両先生に出逢えたことです。以来樋川先生とは師であり、又尊敬する友人として深い交遊を頂き、先生の彫刻に対する姿勢、純粹さ、作品に対する情熱には、心から尊敬出来教えられるものがありました。

思えば才学なき身ながら今日まで、同じ仲間に影響されつつ、たゞ好きな道として一生懸命歩いて来たように思います。

この度私が賞を頂きましたのも、両先生始め、よき先輩、よき仲間達からの贈り物と思って居ります。ありがとうございました。



文化奨励賞を受賞して

坂 本 恵 華

この度、山梨県文化奨励賞を頂き、身に余る光栄と思っております。振り返って見ますと私と「やまなし県民文化賞」との出合いは、昭和46年第24回展山梨県芸術祭に出品した時から始まりました。初出品から2年連続で優秀賞を頂き、正に考えてもいない出来事でした。それから賞に対する責任のようなものを感じ始め、臨書を勉強する中で展覧会に出品する作品造りに追われる毎が続いていました。思うように書けない時期もありましたが、展覧会場で美しい力強い作品に出合った時に感動し、それが励みとなりこれ迄続ける事が出来ました。微力ながら少しでも山梨の書道文化の発展に貢献出来ればと云う思いもあり、当時の山梨県芸術祭書道部専門委員、そして、県書道会の常任理事、副理事長を務めさせて頂きました。苦しい時期を乗り越えて、書道を続けてこられた事は本当によかったと思っております。



喜びと、御礼の言葉

岩 谷 秀 雄

平成16年11月15日に、私は、県芸術祭写真部門専門委員として、山梨写真研究会の幹事も務め、今度県文化奨励賞受賞しましたことは、本当に夢のような気持です。私は、山梨学院大学附属小学校に勤務しております。私のために教職員始め小学校のPTAの皆様の温かい祝福により、先日1月17日～20日迄、私にとって初めての写真展を小学校主催で開催して頂き、私も心から嬉しく感謝して胸がいっぱいです。これからも、又、私の励みになり、一生懸命努力して頑張っていきたいと思っております。

山梨県芸術文化協会の会長様そして、皆様には、心から感謝申し上げ、これからもご指導をお願い致します。

終りに、皆様のご健康とご活躍をお祈り致しまして喜びとお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。



山梨県文化賞奨励賞を受賞して

華道池之坊御城流 内 藤 楽 松

この度図らずも山梨県文化賞奨励賞を賜り、身に余る光栄と感謝致しております。これも偏に山梨県華道協会の会長様はじめ諸先生方の御推薦に依るものと心より御礼申し上げます。私にとりまして池之坊御城流から華道教授就任の命を受けて以来、40年の節目にあたる年に、名誉ある受賞でした。この重ねての喜びを謙虚に受けとめ、これからも華道家として美の道を研鑽しながらなお一層心をひきしめ、後進の指導に精進して参りたいと思います。



華道家には定年がありません。健康が許すかぎり伝統を守りつつ新現代花を追求して、今後も各地での、お花によりますデモンストレーションに力を注ぎ、活花の素晴らしさや感動を伝えて参りたいと思っています。

受賞にあたり御苦労頂きました関係者の方々に心より、御礼申し上げ、喜びの言葉にかえさせていただきます。

文化賞奨励賞を受賞して

長 坂 邦 童

私が尺八を始めたのは、戦後まだ娯楽の少ない昭和27年初め頃です。当時務めていた東電駒橋発電所に今は亡き人間国宝納富寿童氏の次男治彦氏に入門し以来50年、勤務の関係もあって単身赴任などした関係で途中中断したこともありましたが、今迄なんとか継続することができたのは、家内が琴をする関係で合奏の機会に恵まれたこと、また童門甲斐寿会および山梨三曲協会の皆様のご支援により今でも毎年演奏会で合奏するほか、日本三曲協会に童門会として本曲を年2回出演するなどの機会に恵まれ、今でも喜寿をむかえた高令になりますが、毎日惚け防止のため練習しております。



尺八は吹けば簡単に音のでる楽器とちがひ、又首振り3年と言うように5つの穴でいろいろな音をださなければならぬ難しいためか、長続きしないことが残念ですが日本古来の伝統音楽を消さないよう皆様始めてみませんか。

音楽と私

古 谷 宏

この度は山梨県文化賞奨励賞受賞の栄に浴することが出来、推薦して下さいました関係各位をはじめ、今日まで私を支えて下さった方々に感謝の意を表します。

顧みますと、音楽のすばらしさに触れ、自ら唱ったり、弾いたり、作曲を始めて以来もうすぐ半世紀になるうとしています。高校時代合唱部に入りハーモニーの織りなす美しさを体感し、合唱組曲「日本の花」を作曲、それが県芸術祭で入選したことが大きな励みとなりました。そして当時入団していたNHK甲府放送局合唱団の指導をされていた坂本良隆先生、更に平井康三郎先生より本格的な作曲法を学ぶことが出来ました。

爾来合唱曲は勿論、童謡、歌謡曲、民謡、市町村歌、校歌、社歌、歌曲、オペラ、オーケストラ、太鼓や琴のための作曲等多岐に渡りジャンルを拡げていきました。初期の頃ポピュラー曲の作詞を手がけて下さった竹内秀秋先生、また、民謡や音頭の作詞者澤登初義先生には大変お世話になりました。詞があつての曲、曲があつての詞であり、お互いの持つ良さを引き出す感性の結実があつたように思われます。

また、音楽を愛する人々との出会いが創作意欲をかき立ててくれました。音楽は世界共通語です。音楽によって人の心が癒されたり、生きる勇気を与えられたりします。この偉大な音楽に自分がいろいろな形で関わる幸せを実感しています。

三年ほど前より山梨県民文化祭の一環としてポピュラー音楽祭の企画・運営の責任者として携わっておりますが、若者がポピュラー音楽を通して自らを表現する真摯な姿に心を打たれます。クラシックでもポピュラー音楽でも民謡でも音楽に変わりありません。多くの人々が年齢・性別を問わずいろいろなジャンルの音楽を演奏したり、聞いたりして楽しむ機会がもっともっと増えるようお願いしつつ、これからも山梨県の音楽文化の振興と向上に微力ながらお役に立てればこの上ない喜びです。



山梨県文化賞特別賞

俳句のいのち

福 田 甲 子 雄

雪なくば眠りにつけぬ八ヶ岳 甲子雄

病床にある。大きな手術をした。窓から望む八ヶ岳連峰の雪化粧が日に日にすそ野へと広がっていく。

戦前戦後、山梨は養蚕が盛んだった。「眠蚕」「春蚕」「捨蚕」…。養蚕にかかわる季語もかつては季節の実感を伴う実景としてあった。

ところが、その養蚕が今ではほとんど姿を消し、養蚕にかかわる季語は実感を失った。時代のすう勢。季語の実景がなくなるのはやむを得ない。だが、寂しい。近年、時代の変化が著しいからか、齢を重ねたからか、実景を失う季語への哀惜の情が強くなってきた。

実景が消える宿命の季語は多い。だが、季節の移ろいは確実にある。季を感じ取る心だけは失いたくない。「俳句のいのち」である。

窓外から、微かだが野太く鋭い風の音が聞こえる。八ヶ岳風である。微かな音の向こうに、風に立つ少年の自分が、全身を突き刺すような痛みとともに甦る。

富嶽射るごと八ヶ岳風かな

甲子雄



部門の紹介

書道部門の紹介

書道部門長 風間耕雲

芸術文化協会書道部門（やまなし県民文化祭書道部門）は、「第1回芸術祭書道彫刻展」のタイトルで、昭和23年に県主催の芸術祭として開催され活動を展開してきた。

当時の県内書道界は山梨書道協会が唯一の公募団体であり、主要な作家は殆ど同会に所属していた関係で、芸術祭書道展の運営、審査等、同会員の役員十数名を選出して担当して参りました。

昭和27年、第7回書道展の折、山梨書道協会が中央書壇の辻本史呂氏を招聘して、研修会を開催し、その機会に審査をお願いしたことがあり、以後昭和34年、第12回展まで中央書壇からの審査をお願いした。

昭和35年、第1回山梨県総合美術展、第2部（書道・テン刻）として発足、いわゆる県展としてスタートし、再び県内書道界による審査が行なわれたが順調には参らず大変なご苦労も多かったようです。

昭和44年、第10回県展は諸般の事情により山梨書道協会は分裂し、会議の上休止された。翌昭和45年、第11回県展には、県書道会、山梨書道協会相方から県芸術祭専門委員を選出して運営に当ることとなり再度中央書壇からの審査をお願いすることとし以来今日までその審査方法は続いています。

現在県内においては、公募団体や書のグループが存在していて、それぞれに活躍されています。

2001年にやまなし県民文化祭となり、書道部門での表現は、漢字（多字数・少字数）かな・近代詩文（調和体）テン刻・刻字とジャンル也多岐にわたっている。

中央書壇からの審査は、これまで一人制から二人制とし、三年に一度は仮名部門の審査員をお願いして漢字部門とともにかな部の盛り上がり期待するところです。又近年テン刻・刻字部門の応募が少ないのが淋しい。今後この部門の出品数の増大を期待しているところです。

2004年、県立美術館の一般展示室が増床され、その名も県民ギャラリーとなった。



これまでは壁面の関係で委嘱作家については、当番制としてきたが、今回より全員に出品をお願いすることとした。総合展示には、当番に当る委嘱作家の方に、他の委嘱作家全員は一般入選作品と同時に展示することが出来、好条件の中で作品鑑賞ができるようになった。又合同展示では、本展において受賞した作家の作品を、他部門の作品と共に展示して、年間の業績を総括しようとするもので、今年で4回展になります。

一般公募では、近年高齢化している現在、若年層の出品を期待する。作品内容も充実してきているだけに、今後の大きな課題のひとつかと思えます。

いんふおめーしょん 芸術文化協会会員活動紹介

書 道

- | | |
|---|---|
| ● 第15回千羽会展
期日 4月14日（木）～17日（日）
会場 情報プラザ | ● 第57回山梨書道協会展
期日 6月21日（火）～26日（日）
会場 県立美術館 |
| ● 第30回記念藍笥会展
期日 5月19日（木）～22日（日）
会場 県民会館地下 | ● 第9回墨雅会展
期日 7月29日（金）～31日（日）
会場 甲府総合市民会館 |
| ● 第54回玄遠書道全国展
期日 6月8日（水）～12日（日）
会場 県立美術館 | ● 第35回梨郷会展
期日 8月24日（水）～28日（日）
会場 県民会館地下 |
| ● 第4回山梨書作家連盟展
期日 6月14日（火）～19日（日）
会場 県立美術館 | ● 第24回昭書会展
期日 8月26日（金）～29日（月）
会場 情報プラザ |

音 楽

●山梨交響楽団第32回特別定期演奏会

トヨタコミュニティコンサートin山梨

日 時 2005年6月25日(土)
18時開場 18時30分開演 20時30分終演予定
会 場 山梨県民文化ホール 大ホール
出演者 管弦楽：山梨交響楽団
指揮：北原幸男
ソリスト：仲道郁代(ピアノ)
バレエ：井上バレエ団
お話・音楽監督：三枝成彰

演奏曲目(予定)

- ・第一部：チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番
ラヴェル／ボレロ(バレエ付)
- ・第二部：サン・サーンス／交響曲第3番「オルガン付」
- ・アンコール：チャイコフスキー／バレエ音楽
「胡桃割り人形」より「花のワルツ」

※曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

●美術館サマーコンサート

日 時 2005年8月13日(土)
18時30分開場 19時開演 20時30分終演予定
会 場 山梨県立美術館正面玄関ピロティ
出演者 管弦楽：山梨交響楽団

合 唱

●平成16年度定期総会

期日 4月16日(土) 会場 県民文化ホール会議室

●山梨県合唱祭

期日 6月18日(土)～19日(日)
会場 甲府市総合市民会館・桃源文化会館

●県民文化祭合唱フェスティバル2005全日本合唱コンクール山梨県大会

期日 8月27日(土)～28日(日)
会場 韮崎市文化ホール

華 道

●平成17年度山梨県華道協会定例総会

日時 平成17年4月10日(日) 午前10時開会
会場 岡島ローヤル会館 8階

●山梨県華道協会設立15周年記念式展

日時 平成17年4月10日(日) 午前11時
会場 岡島ローヤル会館 8階

●山梨県華道協会15周年記念祝賀会

日時 平成17年4月10日(日) 12時30分
会場 岡島ローヤル会館 8階

●山梨県華道協会設立15周年記念展

会期 平成17年4月7日(木)～12日(火)
会場 岡島百貨店 7階特設会場

●同記念展開幕式

日時 平成17年4月7日(木) 午前9時50分
会場 記念華道展会場

演 劇

●劇団やまなみ創立50周年記念公演(No.1)

日時 7月9日(土) 午後2時30分・6時30分
(共に開場は30分前)

会場 甲府市総合市民会館芸術ホール

内容 「モモと時間どろぼう」
～時間どろぼうにぬすまれた時間を
人間にとりかえしてくれた女の子の物語～
原作：ミヒャエル・エンデ
(岩波書店刊「もも」より)
訳：大島かおり 脚色：小松幹生

邦 楽

●山梨県尺八協会 竹の和尺八演奏会

期日 平成17年4月16日(土)
会場 山梨県立県民文化ホール(小)

●尺八逸連会定期演奏会

期日 平成17年5月8日(日)
会場 山梨県立県民文化ホール(小)

●山梨三曲協会定期演奏会

期日 平成17年5月15日(日)
会場 山梨県立県民文化ホール(小)

●玉穂町れんげ祭参加

期日 平成17年4月29日
会場 玉穂町虚無僧行列(山梨如道会)

洋舞 バレエ

●中村元子バレエスタジオ定期発表会(20周年)

日時 平成17年4月17日(日)
午後2時開場 午後2時30分開演
会場 山梨県民文化ホール 大ホール
内容 「コッペリア」全3幕
問い合わせ先 055-243-8655
中村元子バレエスタジオ

●第26回三井京子バレエ研究所発表会

日時 2005年6月19日(日)
2回公演 午後1時・午後4時30分
会場 山梨県民文化ホール 小ホール
プログラム
○小品・バレエコンサート(グラン・パ・ド・ドゥ)
○白雪姫○パキータ○エジプト物語(創作バレエ)

写 真

●第4回山梨県写真団体連絡協議会合同展

会期 平成17年5月31日(火)～6月5日(日)
(初日は12:00から、最終日は午後3時まで)
会場 山梨県立美術館県民ギャラリーB
内容 連絡協議会加盟の33写真クラブが出展する130点
の自由作品の展示

●全日本写真連盟山梨県本部合同撮影会

期日 平成17年4月17日(日) 午前10時から
会場 笛吹川フルーツ公園
内容 全日写連県下6支部のメンバーによる風景、スナ
ップの撮影

芸文やまなし表紙募集 芸文やまなしVol.13の表紙を募集しています。ふるってご応募ください。

■事務局 山梨県企画部県民室 生涯学習文化課 芸術文化担当

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL 055-223-1797 FAX 055-223-1322